

ママと
アウトドア旅行
満天の星空の下、
広い原っぱの上で
動物的セックス

ママとアウトドア旅行

満天の星空の下、

広い原っぱの上で動物的セックス

僕の名前はカツヒロ。アウトドアが趣味だ。

いつもは友人たちと釣りや登山、キャンプなどへ出かけることが多いのだが、夏も近づいたこの季節、ママを誘って遠くの山までキャンプへ行ってみようと思い立った。

「**ママ！** ねえもし良かったらさ、一緒にレジャー行かない??」

「**レジャー？** 確かにカツヒロは**アウトドア**好きよね。だけどママと？友達とじゃなくて？」

不思議そうに尋ねるママに僕は迷いなく告げた。

「たまには友人じゃなくてさ、ママと一緒に行ってみたいんだよ」

決めたらすぐ行動。

ということで、二人で話し合い計画を立て、道具などで足りないものがあれば近くのレジャー用品店へ出向き揃え、準備を進めた。

「この懐中電灯どう？けっこう高機能みたいよ？」

僕もアウトドア好きとは言え、泊りがけで行くことはそれほど多くはなかった。だけど今回ママと計画したアウトドア旅行は **3**

泊 4 日の泊りがけだ。一緒に 3つの夜を越えることとなる。

「良さそうだけどちょっと高くないかな。もう少しあっちに安いのがあるよ」

天気予報では一日目はあいにく朝から雨だった。

しかし、予報とは一転、朝起きると快晴ではなかったものの空には少し**晴れ間**が見えていた。

「なんとかなりそうね。天気っ！！」

「ほんとだ。良かったよ！」

長時間列車を乗り継ぎやって来た目的地。あまりに普段住む街と違う広々とした風景に、全てが洗われるように感じた。

場所は**山の麓のキャンプ場**。山麓から更に平地の方へ歩くと、広い田園と草原地帯になっている。全体が盆地の町だ。

現在は5月下旬。避暑の時期でもなければ紅葉や桜が美しい季節でもないため、他の利用者は予想通り少なかった。

この旅行の僕たちのメインの目的は自然散策。

ママとゆっくり肩を並べて歩きながら、僕たちは青々と茂る自然を思う存分堪能した。

それなりに有名なキャンプ場であったため、利用者は少ないと言ってもらった。同じように散策している人たちも多くて、すれ違ったときに会釈して、

「良い天気ですねえ」

なんて挨拶してみたり。

「どこから来たんですか？」

「ああ、私たちはミカン町です。お二人は??」

「僕たちはブドウ市です」

「ええ!? そんな都会から？」

「“都会だから”ですよ。たまにはこうして**田舎の自然**に触れ

てみたくて」

とにかくそんな感じで僕とママはゴミゴミした街中では決して味わえない**開放感**を二人で堪能していた。

「ふあああー——思う存分羽を伸ばせたぞっ！！」

「そうねえ、癒されたわ、ほんとっ」

二人で背筋を伸ばし、手の甲を空高く突き上げる。
空が少し暗みを帯びてきた。

体験版はここまでです。

もし内容を気に入っていただけましたら、

続きを製品版でお楽しみいただけますと光栄です。